



謹啓

並に清道奉呈上と、

陣者け在職中は誠に

一平十三年に於て厚配を蒙り

尚ほ驥尾に對し、對外に

微力も盡す所の決心に存之

と上は、田中氏に職をば

せ得て、儀に申し、

誠に遺憾に奉存と、

此に對外の事は内政の二

に起つたことには、

「フアースト」に就きし

は、後相變り、

高見七郎を、

何方に、願上と、

此の書は
に越したるものには坐と

「フアー、イースト」に就て

はその後相変るが

高見七御が著くと同

何ら宜敷願は

マインツトキより(8)日

のけり高統の筆記ナミの午

をキビ送り事り序り

此兩三日中に勢に

校回を煩けし厚く

をじり

早の通首

十一月七日

深草英五

大隈伯爵

閣下